

【白露】はくろ

明日九月八日は白露です。白露は二十四節気のひとつです。二十四節気とは太陰太陽暦に基づく中国より伝わった季節の区分で一年を二十四に当分します。

(日付は概略で年度により多少変わります)

立春 2/4 雨水 2/19 啓蟄 3/5 春分 3/20 清明 4/4 穀雨 4/20

立夏 5/5 小満 5/21 芒種 6/5 夏至 6/21 小暑 7/7 大暑 7/22

立秋 8/7 処暑 8/23 白露 9/8 秋分 9/23 寒露 10/8 霜降 10/23

立冬 11/7 小雪 11/22 大雪 12/7 冬至 12/21 小寒 1/5 大寒 1/20

古代の暦は体験的暦と天文的暦に大別できるのではないのでしょうか。

体験的暦とは「柚子の実が黄色くなったら雪の備えを」、「奥山の残雪が消えたら田植えの準備を」というように移ろう季節の様から体験的に生活の節目を読み取る暦です。

それに対し、天文的暦は太陰暦(月の満欠の周期をひと月とした暦)であれ太陽暦(太陽の運行を基にした暦)であれ天文の周期に合わせ日数を数える体系的暦です。

1回帰年(太陽年)は365.24日と端数であり、天文的暦・殊に太陰暦を徹底すると実際の季節と明らかにずれが生じてしまいます。このずれの調整に二十四節気は一役買っているのです。

二十四節気は日数や黄道の太陽の視位置を基に1回帰年をほぼ24等分したものです。これを指標に、閏月を加えることにより太陰暦と実際の季節とのずれの調整したものが太陰太陽暦なのです。一般に陰暦・旧暦とよばれているのはこの暦です。すなわち二十四節気は太陰暦を体験的暦に近づける拠り所なのです。

そのためでしょうか、二十四節気の名は季節感に溢れ、いにしへの体験的暦を彷彿とさせてくれます。

雨水(うすい) 啓蟄(けいちつ) 清明(せいめい) 穀雨(こくう) 小満(しょうまん) 芒種(ぼうしゅ) 処暑(しょしょ) そして白露(はくろ)……、

嗚呼!なんと美しい言葉なのでしょう。昔の人は天地と共に呼吸をしていたのだと実感させられます。

天文的暦と体験的暦を融和させた暦なればこそ生まれた名称といえましょう。

現代では国際的に太陽暦(グレゴリオ暦)が普及していますが、東アジアに根を下ろしたこの暦はそう簡単に忘れ去られるものではありません。

言うまでもなく俳句の季語は二十四節気に基づくものであり、冬至の柚子風呂などもそれに基づく風習です。もっと生活の中で復活させたい暦ですね。少なくとも茶の湯の世界では。

『礼記』月令篇に

・孟秋の月 涼風至り 白露降り 寒蟬鳴く

とあります。「初秋の月には涼しい風が吹いて、白露がくだり、蟬(ひぐらし)が鳴く。」というのです。当時、露は秋を告げる風物だったのです。

また、露は天が授ける貴重な仙薬と信じられていました。漢の武帝は高い台の上に玉製の大盤を

設置し、そこに溜る露を飲んだといいます。不老不死を願ってのことです。美味しかったのでしょうか。どんな味が気になりますね。

中国では徳の高い王が善政を行えば天から甘露が降るといわれていましたから、甘かった(そう思い込んだ)のかもしれない。

このように露が仙薬であることが日本に伝わり、平安時代の着せ綿の根拠になったのでしょうか。(「折々の銘」重陽'04/9/9 5:25 参照)

白露を「しらつゆ」と訓に読むと、和歌の世界に入り込んだ心地がします。もちろん、透き通った玉のような露という意味です。現象的には地表上の大気が冷え凝結し草葉などに溜った水滴です。秋の夜におきやすく、朝の気温の上昇と共に消えてしまいます。このことから「消ゆ」「置く」の縁語となったのです。

さらに消えやすさから、はかないことのたとえとなり、形状から涙・わずかなもののたとえともなりました。

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~